

## ■背景と目的

大阪府では大阪産（もん）のナスをはじめ、イチゴやブドウなどの栽培が盛んに行われています。作物生産には病害虫による被害がつきものであり、産地を守るためにも、薬剤を有効に活用する必要があります。しかし、薬剤の種類によっては、耐性菌が出現することがあり、問題となっています。

本研究では、効果的な薬剤の選定に活かすため、府内のイチゴ生産ほ場から採取された灰色かび病菌について薬剤耐性菌検定を実施し、耐性菌出現のモニタリング及び有効な薬剤の選定を行いました。

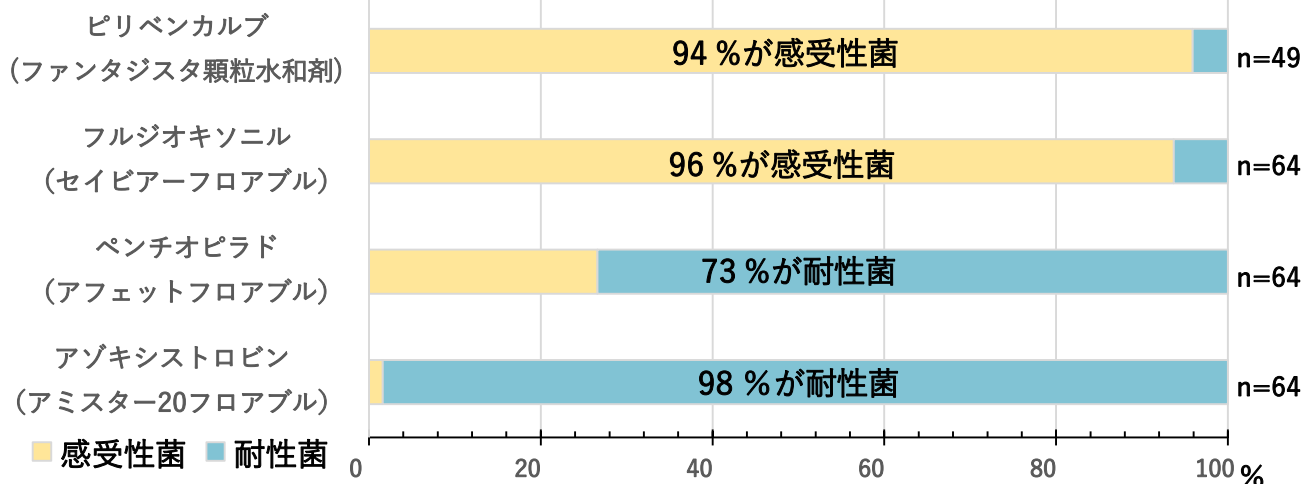
## ■調査の方法

### 薬剤耐性菌検定の流れ



### 薬剤耐性菌検定の結果

関西病虫害研究会報 66 巻 (2024) 大阪府におけるイチゴ灰色かび病菌の薬剤感受性一部改変



■ファンタジスタ顆粒水和剤やセイビアーフロアブルは有効な薬剤であると考えられる。

## ■今後の方向性

検定結果は大阪府の関係機関に共有されます。大阪府から発行されている農作物病害虫防除指針の選定薬剤には、検定結果を踏まえた有効な薬剤が反映されているため、現場での薬剤防除へ活用されています。今後は、新たに使われるようになった農薬や他の病害虫、他の農作物についても検定を実施して情報発信を進めます。